特集

寄稿 地球環境問題とCSRについて

第68回

「地球温暖化」をはじめとする環境問題がますます身近になる一方で、世界の国々が賛同できる国際枠組みの構築は困難な状況にあります。

このような状況下で対策が急がれる中、国際社会はどのように取り組むべきなのでしょうか。

CSRの最先端アメリカでの実体験をもとに日本企業向けのCSRコンサルティングを行うコーポレートシチズンシップ代表の雨宮氏から世界で行われている地球環境問題解決への取り組み等について、ご紹介いたします。

コーポレートシチズンシップ　代表取締役　雨宮 寛氏

世界幸福レポート

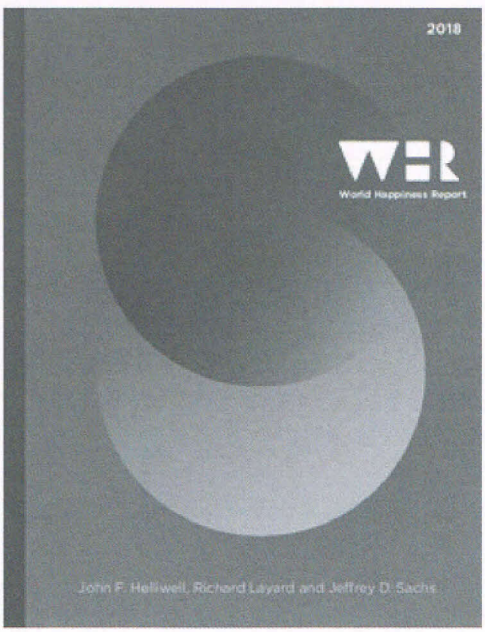
今回は、最近日本でも話題になりました世界幸福レポート「World Happiness Report 2018」について触れたいと思います。日本の順位が気になるところですが、幸福度の測り方や特徴などについても紹介していきたいと思います。

筆者が認識しているだけでも、世界各国の幸福度合いを示す研究は複数あります。先日発表された本レポートは国連が関係しているイニシアティブ「Sustainable Development Solutions Network」や米コロンビア大学の持続可能な開発センターが主体となっています。国際開発経済で世界的に高名なジェフリー・サックス教授も本レポートの著者の一人として参加しています。複数ある同種の研究の中でも、国際社会に知られているレポートと思われます。

早速、幸福度の順位をみていきましょう。本レポートでランキングされている国は156ヶ国に上ります。１位から156位まで数値で表されています。2018年の本レポートは2015年から2017年の３年間のスコアの平均値でランキングされています。これは、いくつかの国は毎年調査ができないケースがあるため、複数年のスコアの平均をとっています。

表１：幸福度上位10ヶ国

順　位	国　名	幸福度スコア
1	フィンランド	7.632
2	ノルウェー	7.594
3	デンマーク	7.555
4	アイスランド	7.495
5	スイス	7.487
6	オランダ	7.441
7	カナダ	7.328
8	ニュージーランド	7.324
9	スウェーデン	7.314
10	オーストラリア	7.272
⋮		
18	米国	6.886
⋮		
54	日本	5.915
⋮		
86	中国	5.246



World Happiness Report 2018

幸福度を数値化するための説明要因は６項目に分かれています。それぞれの項目の点数の合計で幸福度スコアが算出されます。説明要因となる６項目は、①一人当たりGDP、②社会的サポート、③平均健康寿命、④人生選択の自由度、⑤寛容さ、そして⑥腐敗の有無の認識です。これらの説明要因の合計スコアに、最低スコアの国のスコアのゲタ（今回の調査では1.92）を履かせます。さらに、各国の市民へのアンケート調査と、上記の６つの説明要因によるスコアとの差（プラスになる場合もあれば、マイナスになる場合もあります）を反映させることで、０を下回る国がないように調整しています。

表１のように上位10ヶ国に日本は入っていません。上位10ヶ国は北欧、スイス、カナダ、オセアニアの豪とニュージーランドです。日本は54位となり、米国は18位、中国は86位となっています。世界の地域別にみると北欧およびスイスを含めた欧州は相対的に順位が高くなっています。上位10ヶ国にオセアニアが入ったアジアも健闘しています。日本よりも順位の高いアジアの国は、オセアニアの２国を除くと、アラブ首長国連邦（20位、6.774）、台湾（26位、6.441）、カタール（32位、6.374）、サウジアラビア（33位、6.371）、シンガポール（34位、6.343）、マレーシア（35位、6.322）、バーレーン（43位、6.105）、ウズベキスタン（44位、6.096）、タイ（46位、6.072）となっています。中東の国の順位が高いことがわかります。韓国は57位と日本よりも低い順位となっております。説明要因の④人生選択の自由度がアラブの国々は相対的に高くなっています。アラブではありませんが、中央アジアのウズベキスタンは、この④で世界で最も高いスコアを獲得しています。

それでは、日本のスコアを詳しくみてみましょう。日本は①は全体の25位、②40位、③３位、④49位、⑤135位、⑥34位です。平均健康寿命は世界首位でも不思議ではないと思いますが、世界３位ですので、妥当な順位です。①のGDPについても、一人当たりで換算すると世界で20位前後になりますので、妥当な順位だと思います。②の社会的サポートは、日本にいると、日本の行政サービスは行き届いていると感じるのですが、世界には日本よりも税率の高い国々は多くあり、それらの国々の社会的サポートは充実しているのではないかと思われます。④の人生選択の自由度は、女性や高齢者の社会参加などで、今後は順位を上げると思われますが、新入社員の一斉採用は、他国と比較すると自由度を低めている日本独特の雇用方法かもしれません。そして、日本の幸福度スコアの足を引っ張った⑤寛容さです。女性や外国人など、日本社会でチャンスの機会を得ることが難しいと感じる人々はいるのかもしれません。スコア対象国156ヵ国中の135位ですので、考えさせられます。東京オリンピック・パラリンピックを２年後に控え、その前にはラグビーワールドカップもあります。日本への外国人観光客数が毎年増えているので、日本社会の寛容さを向上する時期を迎えているのでしょう。日本よりも寛容さの低い国はロシア（⑤、139位）や中国（⑤153位）などです。

最後にもう一つ気になるスコアがあります。それは、この幸福度スコアの経年変化です。2008年から2010年の３年間の平均スコアと今回の３年間の平均スコアの変化ですが、日本は僅かですが幸福度スコアが低下しています。69ヶ国のスコアが上昇しているにもかかわらず、日本は低下しています。これら２期間の間に経済成長を通じて社会が豊かになった多くの開発途上国のスコアが上昇しています。中国のスコアは0.592上昇しました。一方、もともとスコアの高かった北欧や欧州の国々ではこの２期間中にスコアを落としている国もあります。

本レポートですが、とても良く分析された内容になっています。今回は幸福度のスコアのみを取り上げさせて頂きましたが、国毎にその国の自国出身者と外国からの移住者によるスコアの比較なども分析されています。ご関心ある方は下記のウェブサイトからアクセスしてください。
http://worldhappiness.report/

今回紹介しました「World Happiness Report」の出所はHelliwell, J., Layard, R., & Sachs, J. (2018). World Happiness Report 2018, New York: Sustainable Development Solutions Network.。

略歴

コーポレートシチズンシップ代表取締役。DWMアセット・マネジメント日本代表。アラベスク・アセットマネジメント日本代表。明治大学公共政策大学院および法政大学現代福祉学部兼任講師。CFA協会認定証券アナリスト。NPO法人ハンズオン東京理事。コロンビア大学ビジネススクール経営学修士およびハーバード大学ケネディ行政大学院行政学修士。クレディ・スイスおよびモルガン・スタンレーにおいて資産運用商品の商品開発を担当。2006年コーポレートシチズンシップを創業。「あなたのTシャツはどこから来たのか？」（ピエトラ・リボリ著　東洋経済新報社）「暴走する資本主義」「最後の資本主義」（ロバート・ライシュ著　東洋経済新報社）「ジェンガ 世界で２番目に売れているゲームの果てなき挑戦」（レスリー・スコット著　東洋経済新報社）などを翻訳。「アショカDVD・社会起業家シリーズ」監修。